

第7回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要について

1 会議の日時等

開催日時 令和3年7月20日(火)10時00分～11時45分(大津合庁7A会議室)

出席委員 原 清治 大野裕己 徳久恭子 炭谷将史 坂口明德

高田 毅 中作佳正 上原重治 中山郁英 北山智基

◇これからの県立高等学校の在り方について

2 委員からの主な意見

■答申(素案)について

①	P18、P19「Ⅱ これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方」とP22「ウ 多様な学習ニーズへの対応」に関わることで、言語や生活習慣等の問題で不利益な条件にある外国人労働者の子どもたちへの配慮について言及があった方がいいのではないか。
②	子どもたちが将来自立して自己実現できるように、高校は個別最適な学びを保障する必要があるのではないか。P22「ア 確かな学力を育む」で、「個別最適な学び」をキーワードとして挙げてもいいのではないか。
③	「探究」の時間は、非常に有効な学びだと思う。「探究」というキーワードを、P22「ア 確かな学力を育む」等の前段の方に出すことはできないか。
④	キャリア教育について、小中高の縦の連携と、地元企業との横の連携が非常に重要であり、重点的に推進する必要があると考えている。
⑤	P22「イ キャリア教育の充実」は、箇条書きで記載されているので読みづらい。うまく項目出しした上で文章表記すると、さらに読みやすくなるのではないか。
⑥	今後、県教育委員会が全県的な視野を持って学校配置を提示するとある一方、P23「エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)」では、「学科やコース・類型の設置や科目選択等の工夫を各学校が主体的に検討し…」とあり、相反しているように感じる。実際、どのように進めていくのか考えがあれば伺いたい。 → まずは、来年度、県教育委員会の方で全県的視野から各高校の特色化についての全体像のたたき台を提示し、それを受けて、各高校等がさらに具体的な魅力化について検討していくという流れを想定している。
⑦	県教育委員会が示す全体的な視野を持った指針が、非常に大事になると思うので、どのように決められていくかについてはわかるようにしていただきたい。
⑧	P23「エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)」の箇条書きの部分では、学科に関することや条件整備に関する事等が混在して記載されているので、書き方を整理する必要があるのではないか。
⑨	P23「エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)」の記載内容に違和感はない。大項目、中項目、小項目等による整理された表記ができていれば、概ね良いと感じている。
⑩	P23「普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)」の中で、「地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに関する学科」の記載があるが、小中学校でも同様の学びに取り組んでいる。同じようなことを高校で学んでも発展性がないので、カリキュラムマネジメントの視点から小中高の連携を考えていくことが大切ではないか。

⑪	職業系の学校で、当初は機械で入学したが、その後電気の方が合っているとなった場合、学科を変更できるようにしてもよいのではないかと思います。
⑫	職業系専門学科の特色化について、STEAM教育というワードは記載しなくていいのか。
⑬	職業系学科の魅力を伝える方策に関して、普通科から理系大学に進学する生徒は多いので、普通科の生徒たちにも、探究の時間などを活用して職業系の学びに接してほしいと思う。
⑭	職業系学科の魅力を伝える方策について、「インスタグラムやツイッター等のSNSや動画配信などを活用した広報」が1番最初に記載されているが、教員や生徒が配信するとなると、モラルや動画編集の手間等の問題から、優先順位としてはイベントの企画などが上位にくると思う。
⑮	農業高校は、地域に対してパンやプリンを販売したり、工業高校や商業高校では、地域のお祭りに焼き芋を出したり、作った電気自動車を貸し出したりしている。職業系学科の魅力を伝える方策として、地域との連携は大きいと思う。
⑯	企業では、ICTを活用する目的として損益が論点になる。学校現場でも、ICTを活用することで、人材活用をうまく行ったり、学校の経費を下げたりするという目標を掲げてみてはどうか。教員の働き方改革の観点にも関わることだと思う。
⑰	P28「(3) 教職員のICTを活用するための研修の充実」について、これからの教職員に対する支援策の記載が必要ではないか。
⑱	「持続可能な推進体制の構築」は非常に大事な観点であり、コンソーシアムの構築や学校運営協議会の設置などの記載はあるが、そこで具体的にどのような取組を行うのかが明確になるとよいと思う。例えば、スクールポリシーは、どう地域と一緒にやっていくかが大事になると感じる。
⑲	生徒数が減少する中で、学び直しを専門とするような小規模な高校があってもいいのではないかな。
⑳	地域での特色ある学校づくりをしている学校では、義務教育である小中学校の先生と高校の先生が連携していることが多い。学びの連続性の中で、学校同士の連携や教職員同士の連携を少し検討してもいいのではないかな。
㉑	「経済的な理由で子どもに夢を諦めさせない」といった文脈を、答申の中で取り上げる必要があるのではないかな。
㉒	P31「3 将来に向けた議論の必要性について」に記載しているキャンパス制については、それぞれのキャンパスとなる高校が特色をもっていて、一つの学校群の中にあるというイメージが伝わるよう、書き方の工夫が必要である。
㉓	P31「4 入学者選抜の在り方について」は、私学との関係を考慮しながら考える必要がある。県立高校だけの問題ではないことを視野に入れながら、書き込む必要があるのではないかな。
㉔	SDGsについて、具体的な取組の方向性を記載してはどうか。
㉕	P1のSDGs「ジェンダー平等を実現しよう」は大事な視点だが、それを追記した理由が分かりにくい。どこに影響するのかを分かりやすく伝えてほしい。

■高等専門学校について

①	滋賀県に高等専門学校を設置して、どれくらいの進学志望者を見込んでいるのか。他都道府県で高等専門学校を設置した際、または設置後の志望状況が気になる。高等専門学校を設置することは賛成だが、志望者が少なかったらもったいない。
②	志望者を確保できるかの問題や設置場所等の議論は置いておいて、まずは、どういったことを前面に出した学びを用意するのが重要。
③	編入制度を活用すれば県立高校から高専、高専から大学へと、入学者選抜を受けなくていい。だから、モノづくりが好きなら5年間取り組める。高等専門学校の成否は、どれだけ学習内容を充実できるかにかかっていると思う。
④	職業系専門学科の先生の中には、退職しても学校に来て熱心に教育に関わっている方が多い。そういった先生を人材として活用すると充実するのではないか。基礎的な職業訓練のような学びもあっていいと思う。
⑤	滋賀県から高等専門学校へ進学する生徒が少ないことの大きな要因の1つは、立地的なことがあると思う。近くに学びたいことがあれば、志望者数は増加するのではないか。
⑥	高等専門学校は、学力的に優秀な生徒が多い印象がある。滋賀県に高等専門学校が設置されれば、そういった生徒が集まるだろうと予想される。現場の幅広い基礎的な技術指導は、高等専門学校にはなじまないのではないか。
⑦	他府県には工業高等専門学校が多い。滋賀県で特徴を持たせた高等専門学校を設置するのであれば、例えば、琵琶湖の環境に関する学科や農業に関する学科等を作れば、県外からも生徒を呼べる高等専門学校になるのではないか。
⑧	出口の視点が必要であり、例えば、農業系の高等専門学校を設置するなら、その先にどういう大学の農学部へ編入できるのかを考え、その大学のカリキュラムとの連動も考慮した学びを展開すれば、次の進学先への接続を見据えた人材育成につながるのではないか。
⑨	モノづくりへの関心やこれまでの活動実績など、学力では測れない入学者選抜の在り方を検討してもいいのではないか。
⑩	高等専門学校は、高校より大学に近い存在だと思うので、目的意識をはっきり持っている生徒が多い印象がある。例えば、高等専門学校の生徒と、理数科やSSH指定校の生徒が交流すれば、お互いに良い刺激になるのではないか。
⑪	在り方検討委員会で高等専門学校について議論して出た意見は、今後、県庁内でどのように反映されるのか。 → 県庁内で関係課による検討会を開催しており、今回の在り方検討委員会で出た意見は、その検討会でしっかり伝える。